

# ごあいさつ

厚生労働副大臣 大口 善徳

厚生労働副大臣の大口善徳でございます。本日は晴天のもと、また紅葉の季節を迎える中で大勢の皆様方に「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in みやぎ」に御参加をいただき、主催者である厚生労働省を代表して心から感謝申し上げます。

この会場にお越しの皆様は御存じの方が多いと思われませんが、昨年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数は、速報値で13万3,778件と初めて13万件を超え、過去最多となりました。実態を反映しているということも意味しておると思いますが、虐待によって子どもが命を落とす痛ましい事件が後を絶たない深刻な状況が続いています。増加する児童虐待に対応し、子どもの命が失われる事案が二度と繰り返されないようにするため、本年7月、関係閣僚会議において「児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策」を取りまとめました。本対策では、緊急に実施する重点対策として、子どもの安全確認ができない場合の立入調査の実施など、全ての子どもを守るためのルールの徹底、2022年度末までに児童福祉司を約2,000人増員するなど、児童相談所や市町村の体制と専門性を強化する新プランの年内策定に取り組むほか、総合的な対策といたしまして、相談窓口の周知などを通じた児童虐待の早期発見・早期対応、警察・学校・医療機関等の関係機関の連携強化、保護された子どもの受け皿の充実・強化などを盛り込んでいます。

児童虐待は、一部の取組のみによって解決できる問題ではありません。国、地方自治体、関係機関や団体、地域住民など、子どもに関わるあらゆる人々が密接に連携し、全ての子どもが地域でのつながりを持ち、切れ目ない支援を受けられる社会をつくっていかねばなりません。

本日の全国フォーラムは、このような考えに基づ

き、「未来ある子どもたちのために～私たち一人一人ができること～」をテーマとして掲げました。

午前の部では、保護司や認定NPO 法人代表として子どもたちへの支援に取り組まれてきた大沼えり子先生を講師にお迎えして、虐待などの様々な事情を抱えた子どもや家庭への支援の在り方について御講演をいただきます。私も、この大沼先生がモデルとなった映画「君の笑顔に会いたくて」を鑑賞させていただきまして、大変感動したことを覚えております。

午後には、4つの分科会を開催します。1つ目は、医学的見地から見た児童虐待について、2つ目は子ども食堂の取組を通じた子どもの貧困への対策について、3つ目は、里親を中心とした社会的養護における子どもへの支援について、4つ目は、東日本大震災を経験した被災地における子どもや家庭への支援について、それぞれの分野で御活躍の方々に報告、議論を行っていただきます。

来月11月は、児童虐待防止推進月間でございます。本フォーラムが児童虐待を防止するために、私たち一人一人にできることは何かを考える機会となり、児童虐待のない社会を実現するという強い思いを共有して、子どもの命を守り、子どもが健やかに育つ社会をつくっていくとの力強いメッセージを発信する場となることを期待しております。

最後になりましたが、共催者として本フォーラムの開催に御尽力いただいた宮城県及び仙台市の関係者の皆様、そして会場にお集まりいただいた皆様に深く感謝申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



## 宮城県副知事 佐野 好昭



皆様、おはようございます。宮城県副知事の佐野でございます。

本来であれば、村井知事から直接皆様に御挨拶を申し上げるべきところではございますが、本日はあいにく都合がつかず、出席ができませんでしたので、私が知事の挨拶を預かってまいりました。代読をさせていただきます。

「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in みやぎ」の開会に当たりまして、共催県として一言御挨拶申し上げます。

本日は、大口厚生労働副大臣の御臨席のもと、県内外から多くの皆様をお迎えし、本フォーラムをこのように盛大に開催できますことを嬉しく思いますとともに、本県にお越しくださいました皆様に対しまして、心から歓迎申し上げます。

また、皆様方には、日頃から子どもたちの健やかな成長を支えながら、児童虐待防止のための活動に多大なる御尽力を賜っておりますことに対し、深く感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から7年半余りが経過しました。これまで全国から多くの御支援を賜りながら復旧・復興への取組を進めることができましたことに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

インフラ面の整備は着実に進展しておりますが、一方で、十分な生業の再生や安心できる暮らしの再建など多くの課題を抱えており、復興に向けた道のりは未だ途上であります。心のケアについても、震災前に生まれた子どもだけでなく、震災後に生まれ

た子どもであっても、被災により精神的・経済的に不安定な親の影響から対応が必要な子どもが報告されており、支援の継続が必要な状況です。

加えて、全国的な児童虐待件数の増加、子どもの貧困など、子育てをめぐる社会環境は深刻な状況となっており、関係機関が連携しながら子育て家庭を支援していくことが一層強く求められていると認識しております。

児童虐待防止につきましては、本県では今年7月に県警察本部と仙台市との三者間で情報共有に関する協定を締結し、連携して対策の強化に取り組んでいるところです。

本日のフォーラムは、子どもたちの自立に向け保護司として日々尽力され、本県だけでなく全国でも講演活動などで御活躍されている大沼えり子さんをはじめ、最前線で活躍されている皆様のお話を伺うことのできる貴重な場ですので、今後の取組の更なる推進につながれば幸いです。

なお、本日は全国各地からお越しいただきましたので、食材王国みやぎのすばらしい食材の中から、今売り出し中のブランド米「だて正夢」と、もちもちの玄米「金のいぶき」の御紹介を兼ねてリーフレットなどを提供させていただきました。お知り合いの方に、是非PRしていただければと思います。

結びに、本日御参集の皆様方のますますの御活躍を祈念いたしまして、歓迎の挨拶といたします。

## 仙台市長 郡 和子

皆様、改めましておはようございます。仙台市長の郡でございます。

大口副大臣御臨席の下、「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in みやぎ」の開催に当たりまして、開催地を代表いたしまして私からも一言御挨拶を申し上げます。

杜の都仙台のけやき並木も色づいてまいりました。皆様には全国各地から、ここ仙台にお越しいただきまして本当にありがとうございます。108万市民を代表いたしまして、心から歓迎を申し上げます。

さて、少子高齢化が進展し人口減少社会が現実味を増してくる中で、大切な子どもたちを取り巻く環境は厳しさを増しております。虐待によって小さな命が失われるという報道を目の当たりにいたしますと、なぜ守ってあげられなかったのだろうと、心痛む思いをしております。

本市も、児童相談所における虐待関連の相談件数は増加傾向にございまして、大変難しい対応を迫られるケースも増えてきております。

こうした中で、このような全国フォーラムが開かれますこと、児童虐待防止に向けて皆様方が日々研鑽を積み重ねておりますことに深く敬意を表する次第でございます。

今回、「未来ある子どもたちのために」というテーマの下、児童虐待対応に携わる様々なお立場の方々が全国各地域からお集まりになって、活発な意見交換や情報交換を通じ、お互いに学びあい、互いにネットワークを築く機会になるということは、大変意義

深いものと考えています。

さらに、このフォーラムがここ仙台で開催をされますことは、地元で携わる関係者の皆様にとりましても、質の高い議論、全国の様々な事例に直接接することのできる大変貴重な機会となるわけでございます。

今回、先ほど大口副大臣からお話にございましたとおり、4つの、いずれも重要なテーマの分科会も予定されていると聞いておりますけれども、活発な御意見を交わしていただきまして、知見を積み上げていただきますことをお願いいたします。

参加される皆様におかれましては、このフォーラムで得られた成果を今後の活動に生かしていただくことを御期待申し上げますとともに、本市といたしましても、これを機に関係機関などの皆様となお一層の連携・協力をしながら、未来を担う子どもたちが安心して暮らしていける社会の実現を目指して鋭意取り組んでまいりたいと存じます。

あわせまして、御来仙の皆様方には、この機会を通じまして、ぜひ仙台の秋の風物や味覚なども御堪能いただければと存じます。

最後になりますけれども、今回のフォーラムが実り多いものとなりますこと、さらに御臨席の皆様様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

